

会 議 の 状 況

令和 6 年度第 3 回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会

1. 日 時 令和 6 年 10 月 29 日（火） 13:30～15:00

2. 場 所 ウェディングプラザアラスカ 地下 1 階 サファイア

3. 出席委員 15 名

4. 提出資料

資 料 1 原子力施設環境放射線調査報告書(案)(令和 6 年度第 1 四半期報)

資 料 2 原子力施設環境放射線調査報告書データ集(案)(令和 6 年度第 1 四半期報)

資 料 3 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(案)令和 6 年度(第 1 四半期報)

資 料 4 環境試料測定計画の変更 ー指標生物(海藻類)ー

資 料 5 会議の状況

参考資料 1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料 2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料 3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

5. 概 要

(1) 議事

1) 原子力施設環境放射線調査結果について（令和 6 年度第 1 四半期）

ア 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から資料 1 により説明があり、次のとおり評価された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る令和 6 年度第 1 四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

イ 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から資料 1 により説明があり、次のとおり評価された。

- ・東通原子力発電所に係る令和 6 年度第 1 四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

ウ リサイクル燃料備蓄センター

県から資料 1 により説明があり、次のとおり評価された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る令和 6 年度第 1 四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

委員から、東通原子力発電所のモニタリングに関し、コウナゴが不漁により採れなかった場合に他の魚種で代替できるのかという質問があり、県から、当該海域における定着性の魚はモニタリング計画に記載する 4 種類のみであり、コウナゴの代替となる魚種が存在しない旨回答した。

2) 東通原子力発電所温排水影響調査結果について(令和6年度第1四半期)

水産総合研究所から資料3により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

委員から、植物プランクトンの平均細胞数が過去最多となったことに関して、過去の測定値の範囲を超えた場合には、信頼限界や信頼区域等についても報告したほうが分かりやすいのではないかと意見があり、東北電力(株)から、今後は考察や説明を加えて報告する旨回答があった。

3) 環境試料測定計画の変更について

県から資料4により説明があり、原子燃料サイクル施設及び東通原子力発電所に係るモニタリング実施計画における、指標生物(海藻類、チガイソ)の採取時期・頻度を令和7年度から変更する方針について了承された。

(3) その他

1) 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料1により新規規制基準への対応状況、各事業の運転状況等について説明があった他、トラブル等一覧について説明があった。

2) 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料2により東通原子力発電所の運転状況、新規規制基準適合性審査の状況について説明があった。

3) リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料3により使用済燃料の受入れ量及び累計在庫量、事業開始までの主な工程について説明があった。

委員から、参考資料1のウラン濃縮工場のトラブルに関して、今回のダイヤフラム弁と同様に、他の設備で天然ゴム製のものが無いか調べているかとの質問があり、日本原燃(株)から、現状、当該施設ではダイヤフラム弁以外には天然ゴム製の材質のものは無い旨回答があった。